

パーソナルの保護者通信

第7号 高校選びと大学選び

保護者の皆様へ。いつも大変お世話になっております。

高校選びについて、「第一志望高校に何とかギリギリで入学できてその後ついていけるか心配だから、もう少しレベルを下げた方が良いのか」という相談をよくいただきます。入試に合格できたとしてもその後やっていけるか心配だ、と思う気持ちは当然のことです。

昨今の入試事情を加味すれば、あえて余力を残して学校に入学し3年間校内で良い結果を維持することは、“校内推薦枠の確保という観点では”大学合格を目標とした一つの作戦となりえます。また、高校入学後のレベルの高い授業についていけず成績が低迷し、そのまま学年最下位をウロチョロしてしまう生徒は事実として存在しています。

ですが、高校選びの段階で志望校レベルを下げることは全くおすすめできません。様々な高校の生徒、その中でも様々な学力帯の生徒を見てきているうえでの意見です。

まず、高校に入学すると基本的にその校内の学力差なんてものは微々たるものです。同じ試験を受けて合格した者が一堂に会する場が高校なので、首席近くで合格した者以外は学力差が想像よりも小さいものです。高校で学習する内容は単純に量が多く中学卒業時点での知識量をすぐに上回ってしまうというもあります。最下位近くで入学した生徒と中間的な順位で入学した生徒の差は、大学受験を目指すうえでそこまで大きくありません。よって、「合格後ついていけるのか」といった不安を持つ必要はありません。

同じように、その校内では上位の成績で高校に入学できたとして、3年間トップを維持できるかは当然入学後の努力次第です。どちらかと言えば、最下位近くで合格した者が3年間かけてトップに躍り出ることの方が、トップで合格した者がトップの成績を維持し

続けることよりも多いようにさえ思います。トップで合格したからといって、その後も“楽に”上位を維持するなんてことはできません。

とにかく、高校受験の段階で“妥協”をすることは、良い結果を生まないことの方が多いということです。(補足しますが、明確な意思による高校選びをしていて結果的に偏差値が低い高校を選ぶことになるということに関しては全く問題なく、それどころか素晴らしいことです。)

大学選びという観点で言えば、高校の偏差値が5違うとその進学先の傾向はガラッと変わります。3年間どんな環境で過ごしたか、が明確な違いとなって現れる瞬間です。

- ・大学進学する生徒が少数派の学校
- ・大学進学しない生徒はほぼ皆無の学校

とでは、生徒たちの勉強に対する意気込みがまるっきり違い、

- ・東大をはじめとする超難関大の合格者が数年に一度の学校
- ・毎年コンスタントに超難関大の合格者を輩出する学校

とでも、その違いは歴然です。第一志望大学の合格実績が過去数年にわたって無い環境よりも、見知った先輩が第一志望大学に合格している環境の方が自信も湧きます。ほかにも様々な環境の違いに3年間さらされることがその後の一人ひとりの進学先に大きく影響を与えます。

と、ここまでいろいろと述べましたが結局は“人による”ということも事実であって、高校受験では第一志望に惜しくも届かず、しかし高校3年間の努力が実を結び大学受験では大逆転合格を果たす生徒だっています。でもそれは悔しさをバネに努力が出来る力や、環境に甘える、文句を言うなどせず自律した生活を送ることが出来る力があればこそのもです。そもそも高校受験で本気を出し切ることが出来たかどうか、も大きいでしょう。高校はどこに進学しようが、高校受験を前に(戦略的なつもりで)全力を出し渋ったり、あまり考えることなく高校を選んだりする生徒は予後が悪くなりがちで、結果は不合格だったとしても全力で第一志望高校合格を目指し続けられた生徒は、その後に待ち受ける大学受験で良い成果を出してくれるものです。(その高校を選ぶことによって)全力を出すことが出来るかどうか、結局のところ今後の人生において最も大切なことなのだと考えています。

今週もご覧いただきありがとうございました。